

## 基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科設置							
フリガナ設置者	がっくおほじん かかてん 学校法人 加計学園							
フリガナ大学の名称	くらしきぎじゅつかがてん 倉敷芸術科学大学 (Kurashiki University of Science and the Arts)							
大学本部の位置	岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地							
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法の本旨に則り、芸術、産業科学技術、生命科学に関する学芸を深く教授研究し、人格を陶冶することを目的とする。							
新設学部等の目的	<p>●生命医科学科 倉敷芸術科学大学では2004年以来、生命科学部・生命科学科において2年進学時に「コース分け」を実施し、「医療コース」・「生命環境コース」・「生命化学コース」の体制で教育を行ってきた。「医療コース」では在学中に臨床検査技師と細胞検査士の両資格を取得するカリキュラムが組まれていることより、殆どどの学生が「医療コース」への進学を希望するが、設備の事情から、「医療コース」進学を希望する学生が必ずしも「医療コース」へ進学できていない。また2006年度の入学生に対するアンケートでは8割強の学生が「入学時点で配属コースを明確にする」ことを希望した。学生がより充実した教育を受け得るために「医療コース」を「生命科学科」の中から「生命医科学科」として分離する必要がある。分離することで、入学時点で目的意識の明確な学生を医の倫理に裏打ちされた臨床検査技師・細胞検査士として、国民の健康維持に寄与する人材として養成する。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	生命科学部 [College of Life Science] 生命医科学科 [Department of Medical Life Science]	4年	40人	—年次人	160人	学士(生命科学)	平成20年4月 第1年次	岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>●倉敷芸術科学大学 ・平成20年4月より学生募集を停止し在学生の卒業をもって廃止 芸術学部美術学科 (△40) 芸術学部工芸・デザイン学科 (△30) ・平成20年4月より名称および入学定員を次のとおり変更 芸術学部映像・デザイン学科→メディア映像学科 40→30(△10) 産業科学技術学部コンピュータ情報学科→IT科学科 50→40(△10) 産業科学技術学部起業学科→起業経営学科 30→30 生命科学部生命科学科 90→40(△50) ・平成20年設置に向け平成19年4月末 以下の書類を別途提出済 入学定員20人及び3年次編入学定員8人の増加に伴う学則変更認可申請書 ・平成20年設置に向け平成19年4月末 以下の書類を別途提出済 芸術学部美術工芸学科(45名)、芸術学部デザイン学科(35名)、 産業科学技術学部観光学科(40名)設置届出書</p> <p>●岡山理科大学大学院 ・平成20年設置に向け平成19年4月末 以下の書類を別途提出済 理学研究科臨床生命科学専攻 (12名) 設置届出書 ・平成20年度より入学定員を次のとおり変更 理学研究科総合理学専攻 14→13 (△1) 生物化学専攻 16→14 (△2) 工学研究科応用化学専攻 15→13 (△2) 機械システム工学専攻 15→14 (△1) 電子工学専攻 15→13 (△2) 情報工学専攻 15→13 (△2) 総合情報研究科ソリューション科学専攻 6→4 (△2)</p>							

同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		<ul style="list-style-type: none"> <li>●千葉科学大学</li> <li>・平成20年4月より入学定員を次のとおり変更 薬学部薬科学科 50→40(△10) 危機管理学部防災システム学科 70→40(△30)</li> <li>・平成20年設置に向け平成19年5月末 以下の書類を別途提出予定 薬学部動物生命科学科 (40名) 設置届出書</li> <li>・平成20年千葉科学大学大学院設置に向け平成19年6月末 申請書を別途提出予定</li> </ul>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	生命科学部 生命医科学科	98 科目	12 科目	24 科目	134 科目	124 単位				
教員 組 織 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生命医科学科</li> <li>・生命科学科から7名</li> <li>・コンピュータ情報学科から1名</li> </ul> 移行 平成19年4月届出済み 平成19年4月名称変更済み 平成19年4月届出済み 平成19年4月名称変更済み 平成19年4月名称変更済み 平成19年4月届出済み	
	新設分	生命科学部 生命医科学科	4 人 (4)	1 人 (1)	1 人 (1)	2 人 (2)	8 人 (8)	0 人 (0)		24 人 (14)
		計	4 人 (4)	1 人 (1)	1 人 (1)	2 人 (2)	8 人 (8)	0 人 (0)		24 人 (14)
	既設	芸術学部 美術工芸学科	11 人 (11)	5 人 (5)	2 人 (2)	0 人 (0)	18 人 (18)	1 人 (1)		26 人 (15)
		芸術学部 メディア映像学科	6 人 (5)	2 人 (3)	3 人 (2)	0 人 (0)	11 人 (10)	0 人 (0)		37 人 (36)
		芸術学部 デザイン学科	7 人 (5)	2 人 (2)	3 人 (2)	0 人 (0)	12 人 (9)	0 人 (0)		36 人 (14)
		計	24 人 (21)	9 人 (10)	8 人 (6)	0 人 (0)	41 人 (37)	1 人 (1)		71 人 (52)
	設	産業科学技術学部 IT科学科	13 人 (13)	2 人 (2)	0 人 (0)	0 人 (0)	15 人 (15)	0 人 (0)		12 人 (11)
		産業科学技術学部 起業経営学科	7 人 (7)	2 人 (2)	0 人 (0)	0 人 (0)	9 人 (9)	0 人 (0)		10 人 (9)
		産業科学技術学部 観光学科	5 人 (5)	4 人 (2)	1 人 (1)	0 人 (0)	10 人 (8)	0 人 (0)		28 人 (16)
		計	25 人 (25)	8 人 (6)	1 人 (1)	0 人 (0)	34 人 (32)	0 人 (0)		34 人 (15)
	分	生命科学部 生命科学科	7 人 (7)	4 人 (4)	0 人 (0)	0 人 (0)	11 人 (11)	1 人 (1)		37 人 (36)
		生命科学部 健康科学科	8 人 (8)	1 人 (1)	6 人 (6)	2 人 (2)	17 人 (17)	0 人 (0)		32 人 (31)
		生命科学部 生命動物科学科	9 人 (9)	0 人 (0)	1 人 (1)	3 人 (3)	13 人 (13)	0 人 (0)		18 人 (17)
		計	24 人 (24)	5 人 (5)	7 人 (7)	5 人 (5)	41 人 (41)	1 人 (1)		67 人 (48)
	合計		77 人 (74)	23 人 (22)	17 人 (15)	7 人 (7)	124 人 (118)	2 人 (2)		158 人 (111)
	教員以外の 職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
		事務職員		57 人 (57)		3 人 (3)		60 人 (60)		
		技術職員		3 人 (3)		0 人 (0)		3 人 (3)		
図書館専門職員		1 人 (1)		0 人 (0)		1 人 (1)				
その他の職員		0 人 (0)		0 人 (0)		0 人 (0)				
計		61 人 (61)		3 人 (3)		64 人 (64)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	校舎敷地	133,308.98 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		133,308.98 m <sup>2</sup>				
	運動場用地	14,384.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		14,384.00 m <sup>2</sup>				
	小 計	147,692.98 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		147,692.98 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	28,483.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		28,483.00 m <sup>2</sup>				
合 計	176,175.98 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		176,175.98 m <sup>2</sup>					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
		31,184.31 m <sup>2</sup> ( 31,184.31 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> ( 0 m <sup>2</sup> )		31,184.31 m <sup>2</sup> ( 31,184.31 m <sup>2</sup> )				

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	室	室	室	室 (補助職員 人)	室 (補助職員 人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
		( )	( )	( )	( )	( )	( )		
	計	( )	( )	( )	( )	( )	( )		
図書館		面積 ㎡		閲覧座席数		収納可能冊数			
体育館		面積 ㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要					
経費の 見積り 及び 維持 の概 要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	備考	
	経費 の 見 積 り	教員1人当り 研究費等	教授 1,277千円	教授 1,277千円	図書購入費	(大学全体) 38,503千円	(大学全体) 34,653千円	(大学全体) 25,262千円	
			准教授・講師 1,140千円	准教授・講師 1,140千円		設備購入費	(大学全体) 76,511千円	(大学全体) 55,776千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	芸術学部	1,820千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	—	—		
	産業科学技術学部								
	IT科学科	1,760千円	1,540千円	1,540千円	1,540千円	—	—		
	起業経営学科	1,490千円	1,470千円	1,490千円	1,490千円	—	—		
	観光学科	1,195千円	975千円	975千円	975千円	—	—		
	生命科学部								
	生命科学科	1,760千円	1,540千円	1,540千円	1,540千円	—	—		
	健康科学科	1,650千円	1,430千円	1,430千円	1,430千円	—	—		
	生命動物科学科	1,535千円	1,530千円	1,530千円	1,530千円	—	—		
生命医科学科	1,760千円	1,540千円	1,540千円	1,540千円	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料、私立大学等経常費補助金 等							
大学の名称		倉敷芸術科学大学							
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
(芸術研究科)								倉敷市連島町 西之浦2640番地	
美術専攻修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)	0.75	平成11年度		
工芸専攻修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)	0.35	平成11年度		
芸術研究科修士課程 計						0.55			
芸術制作表現専攻 博士(後期)課程	3	4	—	12	博士(芸術)	0.41	平成13年度		
芸術研究科博士課程 計						0.41			
(産業科学技術研究科)									
計算機科学専攻修士課程	2	8	—	16	修士(産業科学技術)	0.68	平成11年度		
機能物質化学専攻修士課程	2	8	—	16	修士(産業科学技術)	0.68	平成11年度		
産業科学技術研究科修士課程 計						0.68			
計算機科学専攻 博士(後期)課程	3	2	—	6	博士(工学)	0.00	平成13年度		
機能物質化学専攻 博士(後期)課程	3	2	—	6	博士(工学)	1.33	平成13年度		
産業科学技術研究科修士課程 計						0.66			

既設大学の状況	(人間文化研究科) 人間文化専攻修士課程 人間文化研究科 計	2	15	—	30	修士(学術)	0.23 0.23	平成11年度		産業科学技術学部に起業学科(通信教育課程)を設置し、国際教養学部起業学科(通信教育課程)を募集停止。	
	大学院(通信制) (芸術研究科) 美術専攻(通信制)修士課程 芸術研究科 計	2	10	—	20	修士(芸術)	0.50 0.50	平成14年度			
	(産業科学技術研究科) 機能物質化学専攻(通信制)修士課程 産業科学技術研究科 計	2	20	—	40	修士(産業科学技術)	0.00 0.00	平成14年度		平成17年度より芸術学部工芸・デザイン学科より10名を生命科学部健康科学科へ振替。産業科学技術学部起業学科(通信教育課程)を募集停止。	
	(人間文化研究科) 人間文化専攻(通信制)修士課程 人間文化研究科 計	2	30	—	60	修士(学術)	0.13 0.13	平成14年度			
	(芸術学部) 美術学科 映像・デザイン学科 工芸・デザイン学科 芸術学部 計	4 4 4	40 40 30	— — —	160 160 90	学士(芸術) 学士(芸術) 学士(芸術)	1.08 1.24 0.91	平成7年度 平成14年度 平成7年度		平成18年度より産業科学技術学部コンピュータ情報学科より30名、生命科学部より10名を振替。生命科学部に生命動物科学科を設置し、健康科学科10名増。	
	(産業科学技術学部) コンピュータ情報学科 起業学科 産業科学技術学部 計	4 4	50 30	— —	200 120	学士(産業科学技術) 学士(産業科学技術)	0.88 0.98	平成7年度 平成16年度		平成19年度より芸術学部工芸・デザイン学科より10名、起業学科より10名を生命動物科学科に振替。	
	(生命科学部) 生命科学科 健康科学科 生命動物科学科 生命科学部 計	4 4 4	90 60 60	— — —	360 240 240	学士(生命科学) 学士(健康科学) 学士(生命動物科学)	1.19 1.36 1.34	平成16年度 平成16年度 平成18年度			
	学部(通信教育課程) (産業科学技術学部) コンピュータ情報学科 産業科学技術学部(通信制)計	4	200	2年次 100 3年次 100	1300	学士(産業科学技術)	0.04 0.04	平成15年度			
	留学生別科	1	30	—	30		0.73	平成13年度			
	大学の名称	岡山理科大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	(理学研究科) 応用数学専攻修士課程 化学専攻修士課程 応用物理学専攻修士課程 総合理学専攻修士課程 生物化学専攻修士課程 理学研究科修士課程 計	年	人	年次人	人		倍		岡山県岡山市 理大町1番1号		・名称変更 平成17年度より工学研究科機械工学専攻→機械システム工学専攻  総合情報研究科 シミュレーション物理専攻 →シミュレーション科学専攻
		2	7	—	14	修士(理学)	1.28	昭和55年度			
		2	16	—	32	修士(理学)	1.37	昭和49年度			
		2	14	—	28	修士(理学)	0.92	昭和49年度			
		2	14	—	28	修士(理学)	1.10	昭和63年度			
	2	16	—	32	修士(理学)	1.71	平成4年度				
						1.29					

既設大学の状況	応用数学専攻 博士課程（後期）	3	4	—	12	博士（理学）	0.25	昭和62年度		
	材質理学専攻 博士課程（後期）	3	9	—	27	博士（理学）	0.40	昭和53年度		
	理学研究科博士課程 計						0.35			
	（工学研究科）									
	応用化学専攻修士課程	2	15	—	30	修士（工学）	0.86	平成2年度		
	機械システム工学専攻 修士課程	2	15	—	30	修士（工学）	0.76	平成2年度		
	電子工学専攻修士課程	2	15	—	30	修士（工学）	0.43	平成2年度		
	情報工学専攻修士課程	2	15	—	30	修士（工学）	0.66	平成8年度		
	福祉システム工学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士（工学）	0.81	平成17年度		
	工学研究科修士課程 計						0.69			
	システム科学専攻 博士課程（後期）	3	5	—	15	博士（工学）	0.33	平成2年度		
	工学研究科博士課程 計						0.33			
	（総合情報研究科）									
	情報科学専攻修士課程	2	7	—	14	修士（総合情報）	1.71	平成13年度		
	シミュレーション科学 専攻修士課程	2	6	—	12	修士（総合情報）	0.74	平成13年度		
	生物地球システム専攻 修士課程	2	7	—	14	修士（総合情報）	1.28	平成13年度		
	社会情報専攻修士課程	2	7	—	14	修士（総合情報）	0.78	平成13年度		
	総合情報研究科修士課程 計						1.14			
	数理・環境システム専攻 博士課程（後期）	3	2	—	6	博士（学術）	2.00	平成15年度		
	総合情報研究科博士課程 計						2.00			
	（理学部）									
	応用数学科	4	85	—	340	学士（理学）	1.25	昭和39年度	・名称変更 平成18年度より工学部 応用化学科応用化学専 攻、生物・環境化学専攻 →バイオ・応用化学科	
	化学科	4	75	—	315	学士（理学）	0.94	昭和39年度		
	応用物理学科	4	—	—	—	学士（理学）	0.83	昭和41年度		
	物理科学専攻	4	35	—	160	学士（理学）		平成14年度		
	医用科学専攻	4	40	—	140	学士（理学）	平成14年度			
	基礎理学科	4	80	—	315	学士（理学）	1.14	昭和50年度		
	生物化学科	4	90	—	360	学士（理学）	1.22	昭和63年度		
	臨床生命科学科	4	85	—	330	学士（理学）	1.25	平成16年度		
	理学部 計						1.11			
	（工学部）									
バイオ・応用化学科	4	80	—	170	学士（工学）	0.78	昭和61年度	平成18年度より総合情 報学部コンピュータシ ミュレーション学科は 募集停止し、在学生の 卒業をもって廃止。入 学定員40名は建築学科 に振替。 平成19年度より工学部 生体医工学科、総合情 報学部建築学科を設 置。		
応用化学専攻	4	—	—	90	学士（工学）		昭和61年度			
生物・環境化学専攻	4	—	—	90	学士（工学）		昭和61年度			
機械システム工学科	4	85	—	355	学士（工学）		昭和61年度			
電気電子システム学科	4	70	—	340	学士（工学）		昭和61年度			
情報工学科	4	85	—	415	学士（工学）		平成4年度			
福祉システム工学科	4	—	—	70	学士（工学）		平成13年度			
知能機械工学科	4	70	—	210	学士（工学）	平成17年度				
生体医工学科	4	60	—	60	学士（工学）	平成19年度				
工学部 計						0.90		・名称変更 工学部電子工学科 →電気電子システム学科		



## 設置の趣意

### ア 設置の趣意および必要性

#### (a) 教育研究上の理念・目的

倉敷芸術科学大学では2004年以来、生命科学部・生命科学科において「医療コース」・「生命環境コース」・「生命化学コース」の体制で教育を行って来た。「医療コース」では臨床検査技師の資格取得に向けた教育が行われ、特に在学中に臨床検査技師と細胞検査士の両資格を取得するカリキュラムが組まれている。細胞検査士は、人体から採取した細胞を顕微鏡下で形態学的に判定する特殊な知識と技術を必要とする。細胞検査士と成るには、臨床検査技師の国家試験と共に日本臨床細胞学会・日本臨床病理学会の認定試験に合格することが必須である。全国の細胞検査士養成機関として、短期の養成所が3カ所および本学を含め5カ所の大学養成機関のみが存在する。「医療コース」は2007年度に完成年度を迎え、細胞検査士の資格試験においては同様の教育システムを持つ全国大学中第1位の合格者数を挙げた。この結果は、医療を通じた社会への寄与につながるものと確信している。

更に「医療コース」は資格取得だけを目標とせず、基礎医学教育の充実にも力を注いで来た。例えば現代の基礎医学研究に欠かすことのできない細胞培養および急速な進展を見せる神経科学に関する科目を開講することを通じ、学生が新しい医学知識に接する場を提供している。資格の取得に止まらず専門学際領域を追求したい学生に対しては、大学院（修士課程、博士課程）も準備している。この体制は、医学の進歩に対応する新しく高い専門能力を持つ臨床検査技師の養成につながるものである。

これに対し、「生命環境コース」と「生命化学コース」は生命に関する生物学と物質に関する化学を総合的に教育・研究することを基盤としている。これらおよび「医療コース」の何れに学生が配属されるかは、2年進学時に行われるコース分けにより決定される。殆どの学生が「医療コース」進学を希望するが、設備の事情から「医療コース」に進学出来るのは全員では無い。この制度は学生のニーズに合わず、2006年度入学生に対して行ったアンケートで8割を超える学生が「入学時点で配属コースを明確にすること」を希望した。これに応える為には「医療コース」を「生命科学科」の中に含むのではなく、「生命医科学科」として分離する必要がある。教育については過去の科目を踏襲するが、「生命医科学科」は学生がより充実した教育を受け得るシステムであると考えその新設を申請するものである。本学は細胞検査士の養成について全国でも傑出した実績を挙げており、新学科開設により医療を通じ社会により大きく寄与することができるものと確信する。

#### (b) どのような人材を育成するのか

1. 本学科では医の倫理を深く理解し、職に対する誇りと責任を持って国民の健康維持に寄与する人材を養成する。
2. 臨床検査技師・細胞検査士として自身の職業と患者様の要望、さらには臨床検査の意味とシステムに対する理解を備える人材を育成する。
3. 座学に留まらず大学内さらには病院での実習経験を十分に積むことで臨床検査技師・細胞検査士としての高い知識と業務のノウハウを有する人材を育成する。現行の2年進学時コース分けに比べ、入学時から生命医科学科の学生としてスタートすることで質量共に優れた教育を学生は享受できる。
4. チーム医療に必須となる相互協力精神に溢れる人材を育成する。
5. 新しい医学の知識を理解し、それを臨床検査技師・細胞検査士自らの職業に活かす発想を持つ人材を育成する。

#### (a) 校地、運動場の整備計画

本学は学生の教育研究活動、さらに人格形成に必要な学生生活を送れるよう、教育研究環境にふさわしい校地・運動場の充実を図ってきた。校地は岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地に所在し、水島工業地域を見渡す小高い丘の上に建ち、晴れた日には瀬戸内海、瀬戸大橋、遠く四国を望むことができる。その校地面積は174.794㎡であり、この面積は設置基準の校地面積88.986㎡に対して、85.808㎡の基準面積超過となっている。

体育関係の授業や課外活動を行う運動場、体育館は敷地内に設けている。

学生の休憩場所、厚生施設については、学生課が「環境整備のための学生アンケート」を実施し、その要望をまとめ充実をはかっている。開学時より厚生会館（921㎡）の中に学生食堂（574席）、喫茶店（40席）、売店（書籍・文具・雑誌販売）が設けられている。これに加え、平成17年度には、208.8㎡の学生控室（25号棟）を敷地中央に設けた。ガラス張りの明るい空間は冷暖房完備で飲み物などのベンダー・コーナーがあり、学生たちの憩いの場になっている。

#### (b) 校舎等施設の整備計画

基本的に教室、図書館、会議室等の校舎施設は、生命医学科・医療コースが用いて来た現有の施設を活用する。生命医学科の研究室は、専任教員一人当たり24㎡を基準とする部屋を準備している。医療コースの教育を行っている23号棟には、資格取得に必要な実習を行う「大実習室1」、「大実習室2」、「顕微鏡検査室」が在る。

#### (c) 図書館の資料及び図書館の整備計画

図書館は本館のみからなり、面積は、1,446㎡で、閲覧席が232席ある。平成18年度末の蔵書冊数は、和書洋書あわせて74,000冊であり、蔵書の増加数は、平成15年度は4,072冊、平成16年度は2,470冊、平成17年度は3,342冊と毎年定量的に増やしている。この内、生命医科学関連の雑誌は和雑誌8誌、洋雑誌14誌、図書は和書が3,079冊、洋書523冊である。

他大学の図書館との協力については、岡山県大学図書館協議会相互協力協定に参加しており、岡山大学付属図書館はじめ、19大学図書館で閲覧、貸し出しができる。また岡山理科大学、千葉科学大学、倉敷芸術科学大学の姉妹校図書館では、図書を無料で取り寄せることができるなど協力体制を整えている。

### ク 入学者選抜の概要

生命医学科が求める人物像は、下記の特性を持つ者である。

- ・医療の果たす役割と、その倫理の重要性を十分認識する者。
- ・臨床検査技師および細胞検査士という職業と、その医療界および一般社会におけるポジションを正しく理解する者。
- ・臨床検査技師および細胞検査士として必要な知識とスキルを、十分に備える者。
- ・新しい医学に注目し、自らの職業とそれらを有機的に結びつけ医療界と国勢の活性化に寄与する者。

このような人物を、下記の入学試験により選抜する。

入学試験は主に推薦入試、一般入試、ならびに特別入試（私費外国人留学生、社会人）等を予定し、その選抜対象、方法は下記のとおりである。



#### 1) 推薦入試

高校生活での実績に基づいた推薦により、学部・学科が指定した出願資格や能力を持つ生徒を対象に、小論文や面接等により適性や意欲を評価する。

#### 2) A0入試

本学科に強い入学意志を持つ受験者を対象に書類と面接で目的意識や意欲を持った人材を選抜する。

#### 3) 一般入試

学習の基本となる国語、英語、社会（地理、世界史）、理科（化学、生物）、数学の5教科のうち2科目の学力試験で可否を判定する。各科目とも記述式による解答方式をとる。

#### 4) センター利用入試

多数の科目を平行して学習してきた幅広い知識を持つ受験者を対象に、6教科のうち高得点の2教科2科目を選択し、その合計で選抜する。

#### 5) 社会人・留学生を対象とした特別入試

社会人・留学生を対象にした選抜方法（社会人入試・私費外国人留学生入試）も予定している。高等学校卒業後の年月の経過等や海外における教育事情の違い等を考慮し、選抜方法は面接と書類審査により、能力・意欲・適性について評価を行う。

社会人とは、社会人の経験を有し、入学時点で満21歳以上に達する者を対象としている。

### ケ 資格取得を目的とする場合

取得することのできる資格は、次の通りである。

- ・臨床検査技師（国家資格）
- ・細胞検査士（日本臨床細胞学会・日本臨床病理学会の認定）
- ・バイオ技術者認定（上・中級）
- ・医療情報技師

### チ 自己点検・評価

本学は1995年度の開学と同時に自己評価委員会を発足させ、2000年度から本格的に自己評価・自己点検を開始した。その報告書として『自己点検・評価報告書』を2001年度に発行、以降『FD活動報告書』を毎年発行している。また、2000年度・2001年度に全学生を対象とした学生アンケートを実施し、それを自己点検・自己評価に加えた。また、これと平行して2000年度に「大学基準協会」への加盟判定審査を申請し、2001年度に正会員として認定された。2002年度からは全科目を対象に授業アンケートを開始し、2005年度からはアンケート項目の見直しを経て、現在は全集計データを学内教職員に開示するに至っている。

認証評価については、2004年に大幅な学部学科の改組を行ったことから、完成年次の2008年に自己点検評価を行い、速やかに大学基準協会等で評価を受ける準備を行っている。

### ツ 情報の提供

本学が独自に自己点検・評価した『自己点検・評価報告書』（1995年4月～2000年5月）は、学内はもとより、岡山県内外の近隣大学や公共機関へ送付され、製本形式で情報開示されている。また、2000年度に「大

学基準協会」加盟判定審査のため同様の点検・評価報告書を提出し、2001年度に認定を受けている。

#### テ 教員の資質の維持向上の方策

教員の資質の向上にあたっては、学生による授業評価を行い授業改善に生かしている。授業アンケートの個々の科目の集計結果を2005年度後期より学内教職員に開示し、2006年度前期より教職員、学生に開示を実施した。教員には所属学科の平均と個々の担当科目の点をレーダーチャート図で対比し、分かりやすく集計しており、自己啓発を促すよう工夫している。また2005年度より試験的に一部の授業科目を公開しており、授業改善に役立てている。

全学的に2001年度に教育研究委員会（FD委員会）を設置し、2005年度にFD活動の担当事務部署である「教育研究支援センター」を開設し、FD（SD）講演会の実施、FDフォーラムへの教員の派遣、FD報告書の作成、教員の教育・研究業績調査票を作成するなど、FD活動を推進している。